

水素社会の実現に向けた東京戦略会議（第1回） 議事録（概要）

1 事務局から、配布資料について説明をした後、参加委員がプレゼンテーションを行った。

2 配布資料及びプレゼンテーションの内容を踏まえ、自由討議が行われた。委員からの主な意見は次のとおり。

（1） 社会的受容性について

- ・水素の普及促進のためには、一般ユーザーへの普及啓発も重要である。
- ・社会的な受容性を整えていかなければならないと考える。水素がどういうものなのかということを知ることが住民が分からないという点が問題である。

（2） 燃料電池自動車・バスについて

- ・燃料電池自動車の普及に当たっては、車そのものの価格の低下・水素ステーションの整備・水素の価格の低下が必要である。
- ・非常時の給電機能を鑑みると、防災対策としても重要である。防災という観点も加えることで、更に需要を喚起できるのではないだろうか。

（3） 水素ステーションについて

- ・東京都心部は地価が高いため、水素ステーションの設置が難しい。
- ・都内に多くある 250 坪、300 坪のサービスステーション（ガソリンスタンド）への水素ステーションの整備や、小規模の水素ステーション又は移動式の水素ステーションの活用等を検討する必要がある。
- ・普及初期はFCVの台数が極端に少ないため、運営コストが非常に高い。国の建設補助を受けていても非常に厳しい。
- ・水素ステーションに係る規制や基準が、日本と欧米とは異なる。日本では、規制により材料の厚みがあるものや高い材料のものしか使えないので、規制が変われば当然ながら建設に係る費用は低下する。
- ・規制は緩和しながらも、安全は技術で担保するよう、開発を進めていく必要がある。

（4） 定置用燃料電池について

- ・家庭用燃料電池については、出力の適正化、耐久時間の延長、機器の小型化等を進めてきた。小型化に伴い、東京都内に多い集合住宅にも対応できるようになった。
- ・業務・産業用燃料電池については、オリンピック・パラリンピックが市場投入を強力に進める一つの契機であると考えている。

(5) 水素について

- 水素エネルギー導入の課題は、コストである。水素の大量需要と大量供給の同時進行でコストは下がるが、そのためには、FCV や家庭用発電の燃料電池に加えて、より大量に水素が必要となる水素発電のようなことを考えてはどうか。
- 短期的に大量に水素を使おうと思った場合には、海外から CO₂フリー水素を運んでくるのが現実的なのではないか。
- CO₂フリー水素の理想型としては、再生可能エネルギー由来の水素であると考えている。

(6) 水素発電について

- 将来的には純水素、100%の水素でクリーンなエネルギーという考え方が大事であると考えている。しかし、初期の導入段階においては、現状の都市ガス、天然ガスに水素をまぜる混焼という発想があるほうが、現実的な議論及び実社会への適用がより早く進むと考える。

(7) その他について

- 水素のサプライチェーンのショーケースとしては、東京オリンピック・パラリンピックは絶好の機会であると考えている。
- ベストなエネルギーミックスが大切であるので、完全に水素に移行するのがいいという立場ではなく、適材適所で様々なエネルギーを使い、国として二酸化炭素を減らすという視点が大切であると考えている。